

注意 *答えは、縦書きとし、解答用紙の決められた欄に書き入れなさい。

*漢字は楷書、仮名遣いは現代仮名遣いで書きなさい。

*問二の答えは、原稿用紙の正しい使い方にしたがって書きなさい。字数には句読点も含みます。

受 検 番 号

次の文章は、幼いときに病気で視力を失い、現在はエッセイストとして活躍されている三宮麻由子さんさんのみやまゆこによるものです。文章を読み、後の問いに答えなさい。

インターネットという言葉が世界を駆け巡りはじめたころから、私は不思議なことに気がついてきた。それは、駅や路上で手を貸して下さる方々が、以前のように自然な会話をしなくなったということである。

それまでは、天気やプレイスポット、その日の話題などいろいろな会話がはずみ、手を引いてくださった方から小さな最新情報をいただくこともよくあった。手を引きながら人生相談めいたことを話される方もいた。「私、いま会社で一人だけ英語が話せなくて、すごく悔しいんです。どうしたらいいと思いますか」といったOLさんのやるせない相談もあったし、へ中略へひよんなことから仲良くなって、食事や買い物に行く友だちにも巡り合えたし、第二次世界大戦のときの貴重な兵隊体験を話していただいて勉強になったこともあった。

ところが最近は、「お手伝いしましょうか」と声をかけてくださる方はぐっと増えてきたのに、その後はまるで義務を果たすかのように黙々と手を引いて行き、最後はさよならも言わずに突然手を放してそそくさと立ち去る人がみられるようになった。ひどいケースになると、手を引きながら携帯電話でメールを打ったり、まるでアンケートのようにひたすら質問をぶつけて、こちらの答えには何の反応も示さずに気が済んだらさっさと行ってしまいう人もいる。要するに、会話にならないのである。思うに、会話にならないということは、人間としての関わりができていないということではないだろうか。

会話というのは、話し手と聞き手が入れ替わりながら、一つの話題について共に心を広げながら楽しむことだと私は思う。だがインターネットは、こちらの質問に対してジャストミートの答えが返ってくるか、チャットのように文字経由で意見のエッセンスが交わされるだけで、そこには瞬時の判断や緊迫した言葉のやりとりという息遣いが感じられない。また、二四時間一方的に発信できる電子メールに慣れてしまうと、瞬時に答えを判断して言葉のキャッチボールを楽しむ力は失われていくのではないだろうか。もちろん、障害者にとつて、メールやインターネットは素晴らしい恩恵をもたらしてくれている。私自身、いまやメールなしでは仕事にならない日々である。だがしかし、会話の醍醐味だいごみに限っては、けっして **ア** では補えないと思うのである。

もう一つ、会話のやり方を忘れてしまうと、人の考えを受け入れる力も弱くなるような気がする。それは取りも直さず、自分自身の心の進歩という可能性に背を向け、豊かな気持ちをもつチャンスを放棄してしまうことではなからうか。一方的に聞いてくれたり、自分の意見に百パーセント同意してもらえなければ満足できなかったり、苦しみや喜びを共感し合えなくなったりさえするかもしれない。だとすれば、 **イ** の喪失は、心の喪失なのではないだろうか。

(注) やるせない **||** 心のやりどころがない。思いを晴らす方法がない。 エッセンス **||** 物事の本質。

醍醐味 **||** 深い味わい。ほんとうのおもしろさ。 取りも直さず **||** それがそのまま。すなわち。

問一 本文中の空欄 **ア**、 **イ** に当てはまる語を、それぞれ三字以内で本文中から抜き出して書きなさい。

問二 あなたが人と会話をする時に大切にしようと思っていることは何ですか。あなたの考えを二六〇字以上、三二〇字以内で述べなさい。